



説 HP625F
2023/3/14

RoHS

漏 電 リ レ ー

取 扱 説 明 書

LEG-200L



光商工株式会社

漏電リレーの安全上のご注意

このたびは、漏電リレーをお買い上げいただきありがとうございました。
漏電リレーを取り扱われる前に、注意書をよくお読みの上で正しく取り扱われますようお願いいたします。
お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。



安全上のご注意

- 濡れた手でさわらないでください。感電のおそれがあります。
- 制御電源は必要な時以外は切らないでください。
- 充電端子部に触れないでください。感電します。
- 不用意に試験スイッチを押さないでください。遮断器に接続してある場合は停電します。
- 漏電リレーのまわりに使用上及び点検上障害になるものを置かないでください。
- 直射日光が当たるところでは銘板が変色、変形するおそれがあります。
- 必要な時以外は取り外さないでください。取り外す場合は制御電源を切り、零相変流器のk, l端子を短絡してください。



施工上のご注意

- 誤った配線をすると漏電リレーを損傷し出火するおそれがあります。
- 制御電源の誤配線にご注意ください。P₀, P₁端子が AC100/110V、P₀, P₂端子が AC200/220V になります。
- 配線は必ず制御電源が切れていることを確認してから行ってください。
- 端子部外に電源の芯線が露出しないようにしてください。故障のおそれがあります。
- 前蓋は落としたり無理に衝撃を与えないでください。破損するおそれがあります。
- 零相変流器二次側の配線が大電流と並行するときは、電線をよりあわせるか、金属管に入れるなどして電磁遮蔽をしてください。配線の長さはなるべく短くしてください。
- 零相変流器の出力端子 k, l は接地しないでください。
- 高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動衝撃など異常環境に設置しないでください。
- 空き端子には配線しないでください。



点検上のご注意

- 漏電リレーの Z1-Z2 の端子には直接試験電圧・試験電流を印加しないでください。焼損するおそれがあります。
- 月に 1 回程度、試験スイッチを押して、動作の確認をすることをおすすめします。遮断器に接続してある場合は遮断しますのでご注意ください。
- 清掃は柔らかい布で乾拭きしてください。
- 活線状態で感度試験を行うと、動作感度に誤差を生じるおそれがあります。

目 次

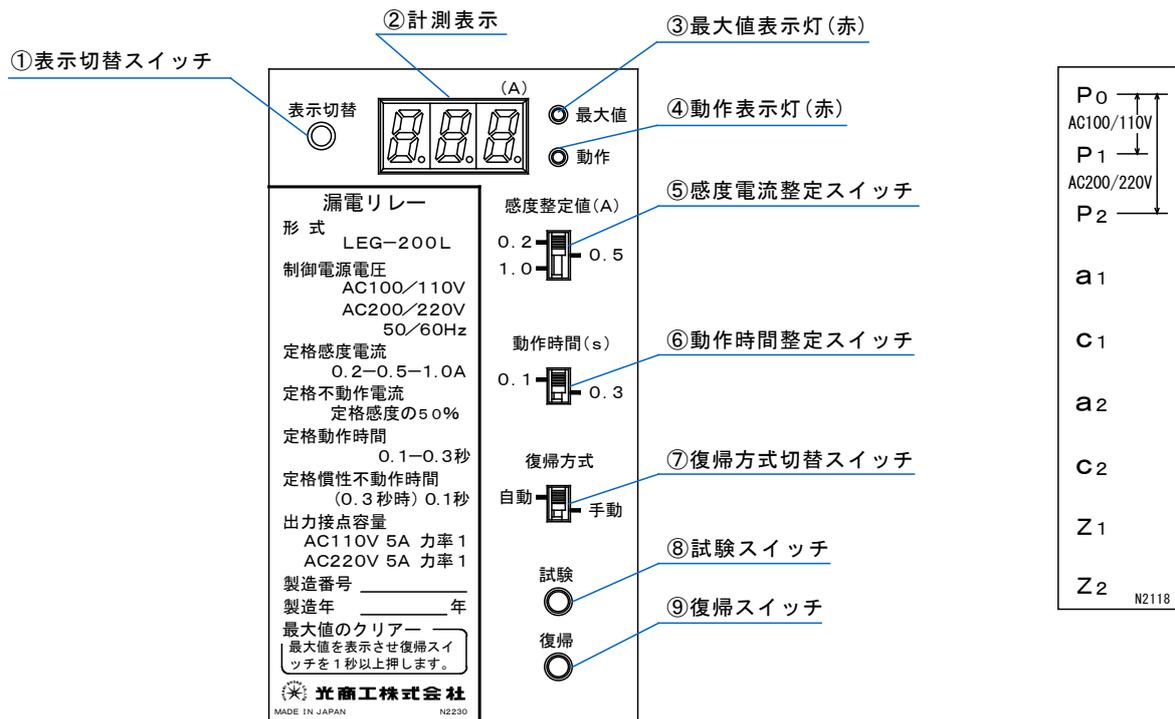
1. 仕 様	4
2. 操作部、及び端子配列図	5
3. 動作と計測表示	6
4. ブロック図	6
5. 外部接続図例	7
6. 点検の方法	
6-1. 感度電流試験方法	8
6-2. 動作時間試験方法	8
7. 良否の判定	
7-1. 感度電流許容範囲	8
7-2. 動作時間許容範囲	8
8. 更新推奨時期	9
9. 事故警報の場合の処置	9
10. 外形図	9

1. 仕 様

項目	形式	LEG-200L		
定 格	感度電流整定値	0.2-0.5-1.0(A)		
	不動作電流値	整定値の50%以下		
	動作時間整定値	0.1-0.3 (s)		
	慣性不動作時間	0.1 s (動作時間 0.3s 整定時)		
	制御電源電圧	AC100/110V	P0-P1 端子	
		AC200/220V	P0-P2 端子	
	周 波 数	50/60 Hz		
性 能	感度電流許容範囲	整定値の51 ~ 100%		
	動作時間許容範囲	0.1sは0.1s以下 0.3sは0.19 ~ 0.33s (信号100%印加)		
	使用電圧範囲	80 ~ 110%		
	使用温度範囲	-20℃ ~ +50℃		
	消費電力	常 時	2VA (AC110V)	
		動 作 時	3.5VA (AC110V)	
	重地絡耐量	連続AC600A 最大AC5000A 0.3s		
	絶縁抵抗	DC500V メガーにて 20MΩ以上 ※耐電圧印加箇所について行います。		
耐 電 圧	2000V 1分間 (制御回路導電部と外箱間)			
	1500V 1分間 (制御回路導電部相互間)			
	1000V 1分間 (同一制御回路の開極接点間)			
機 能	試 験 方 式	試験スイッチ		
	復 帰 / 最 大 値 ク リ ア ー	復帰スイッチ		
		現在値表示中	:	出力接点、動作表示灯
		最大値表示中	:	1秒未満 出力接点、動作表示灯 : 1秒以上 出力接点、動作表示灯、計測表示の最大値
	表 示 切 替	表示切替スイッチ		
	動 作 表 示	表示方式	発光ダイオード表示(赤)	
		復帰方式	自動/手動復帰切替 (手動復帰設定時は、復帰スイッチ) (注)	
	計 測 表 示	発光ダイオード数値表示(橙) 0 ~ 1.60A 分解能 10mA 1.60Aでオーバーフローし、数値が点滅します。		
	最 大 値 表 示	発光ダイオード表示(赤)		
	出 力 接 点	復帰方式	自動/手動復帰切替 (手動復帰設定時は、復帰スイッチ) (注)	
構 成		2a		
開 閉 容 量		電 圧 \ 力 率	cos φ =1, L/R=1ms	cos φ =0.4, L/R=7ms
		AC110V	5A	2A
	AC220V	5A	1.5A	
	DC100V	0.6A	0.2A	
外 装 色	黒 (ABS樹脂)			
質 量	約 0.5kg			

(注) 動作表示と出力接点の復帰方式は、個別に設定できません。

2. 操作部及び端子配列図



① 表示切替スイッチ

計測表示の現在値／最大値を切り替えます。

② 計測表示

I_o の値を表示します。

③ 最大値表示灯(赤)

計測表示に I_o の最大値を表示しているときに点灯します。

④ 動作表示灯(赤)

漏電リレーが動作すると、動作表示灯(赤)が点灯します。
自動復帰設定時は、漏電が解消すれば消灯します。
手動復帰設定時は、漏電が解消しても復帰スイッチを押すまでは消灯しません。

⑤ 感度電流整定スイッチ

感度電流整定値を整定します。

⑥ 動作時間整定スイッチ

動作時間整定値を整定します。

⑦ 復帰方式切替スイッチ

復帰方式を自動/手動に切り替えます。

・自動復帰設定時

漏電リレーが動作後、漏電が解消すると動作表示灯(赤)が消灯し、同時に出力接点が復帰します。

・手動復帰設定時

漏電リレーが動作後、漏電が解消しても動作表示灯(赤)は消灯せず、出力接点も復帰しません。

・復帰方式に関わらず、制御電源が切れると動作表示灯(赤)は消灯し、同時に出力接点が復帰します。

⑧ 試験スイッチ

試験スイッチを押すと動作表示灯(赤)が点灯し、同時に出力接点が動作します。

・自動復帰設定時は、試験スイッチから手を離すと動作表示灯(赤)が消灯し、同時に出力接点が復帰します。

・手動復帰設定時は、手を離しても動作表示灯(赤)は消灯せず、出力接点も復帰しません。

※ 遮断器に接続してある場合は、漏電リレーの動作と連動して遮断しますので不用意に押さないでください。

⑨ 復帰スイッチ

手動復帰設定時、1秒未満押ししたときは、動作表示灯(赤)が消灯し、同時に出力接点が復帰します。

復帰方式に関わらず表示切替スイッチを操作し、最大値表示灯(赤)が点灯しているときに1秒以上押し続けると計測表示の最大値をクリアーします。

・手動復帰設定時、制御電源が入った状態で復帰スイッチを押しても復帰できない場合は漏電が継続している可能性があります。

3. 動作と計測表示

○ 常時

零相変流器を接続し、制御電源を投入すると監視状態となり、計測表示に現在の電流値を表示します。



○ 動作時

零相電流(I₀)が LEG-200L の感度電流整定値に達すると動作表示灯(赤)が点灯すると共に出力接点が動作します。また、計測表示に現在の電流値が表示されます。



○ 最大値の表示とクリアー

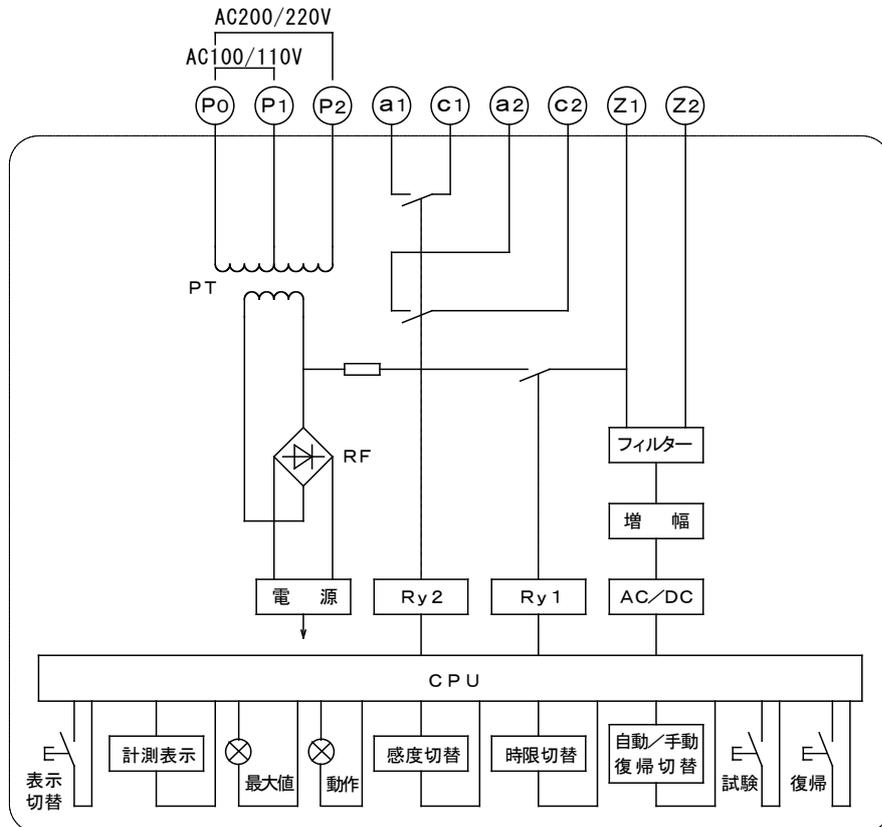
表示切替スイッチを押すと、最大値表示灯(赤)が点灯し、計測表示に最大値が表示されます。表示切替スイッチを再度押すと現在値を表示します。動作時に表示切替スイッチを押すと動作表示灯の点灯と共に最大値が表示されます。



計測表示の最大値をクリアーする場合は、最大値表示灯(赤)が点灯している状態で復帰スイッチを1秒以上押してください。

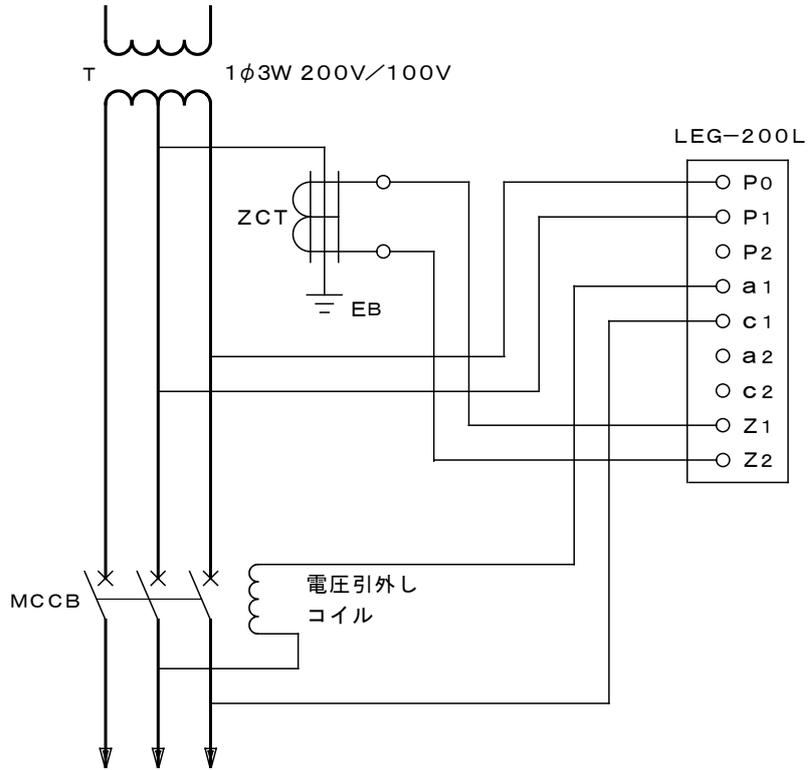
(注) 上記の表示値は参考例です。

4. ブロック図

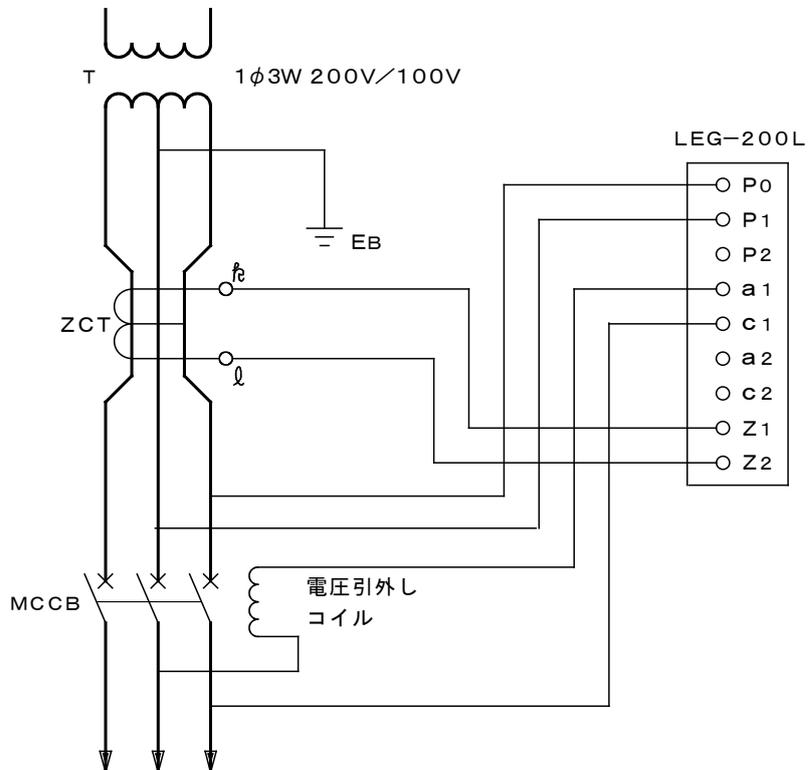


5. 外部接続図例

B種接地線方式（AC100/110V、P0-P1 端子接続の場合）



回路方式（AC100/110V、P0-P1 端子接続の場合）



6. 点検の方法

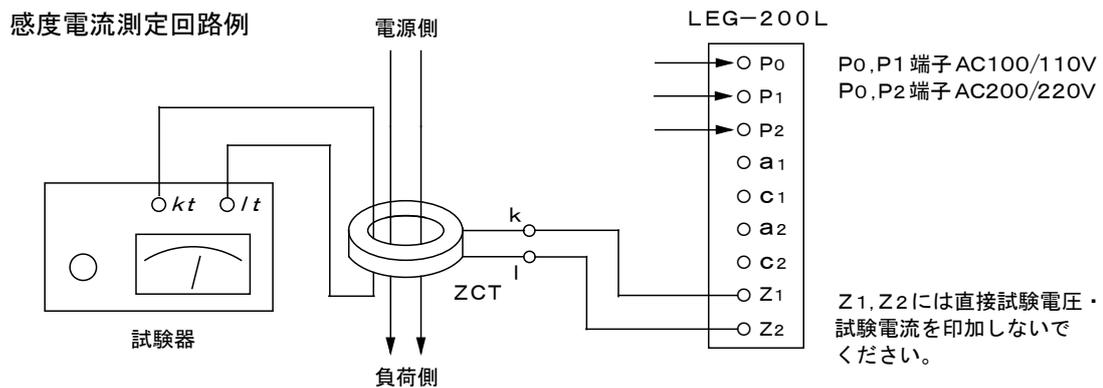
月に1回程度、試験スイッチを押して、動作の確認をすることをおすすめします。遮断器に接続してある場合は遮断しますのでご注意ください。

毎年の定期点検は下図のように測定します。

試験器または別電源から漏電リレーに制御電源を供給する場合は、P0,P1 端子、または P0,P2 端子の配線を外してください。

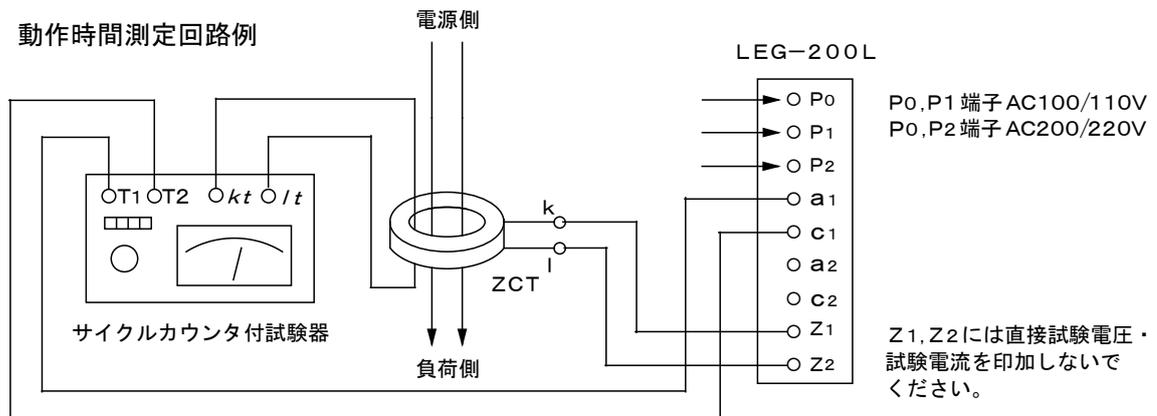
6-1. 感度電流試験方法

継電器試験器から試験電流を零相変流器の一次側、または kt-lt 端子に流して動作値を測定します。



6-2. 動作時間試験方法

継電器試験器から整定値の100%の試験電流を零相変流器の一次側、または kt-lt 端子に急激に流して漏電リレーが動作する時間を測定します。



- 動作時間を測定する場合は、サイクルカウンタ付き試験器をご使用ください。
 - サイクルカウンタのない場合は、ミリ秒メータ等で測定してください。
- 尚、測定時は LEG の a 接点をご使用ください。

7. 良否の判定

7-1. 感度電流許容範囲

漏電リレーの感度電流整定値に対し、測定値が 51～100%の範囲内であれば正常です。

7-2. 動作時間許容範囲

漏電リレーの動作時間整定値に対し、下表の範囲内であれば正常です。

	動作時間整定スイッチ	動作時間許容範囲
信号 100%印加	0.1s	0.1s 以下
	0.3s	0.19～0.33s

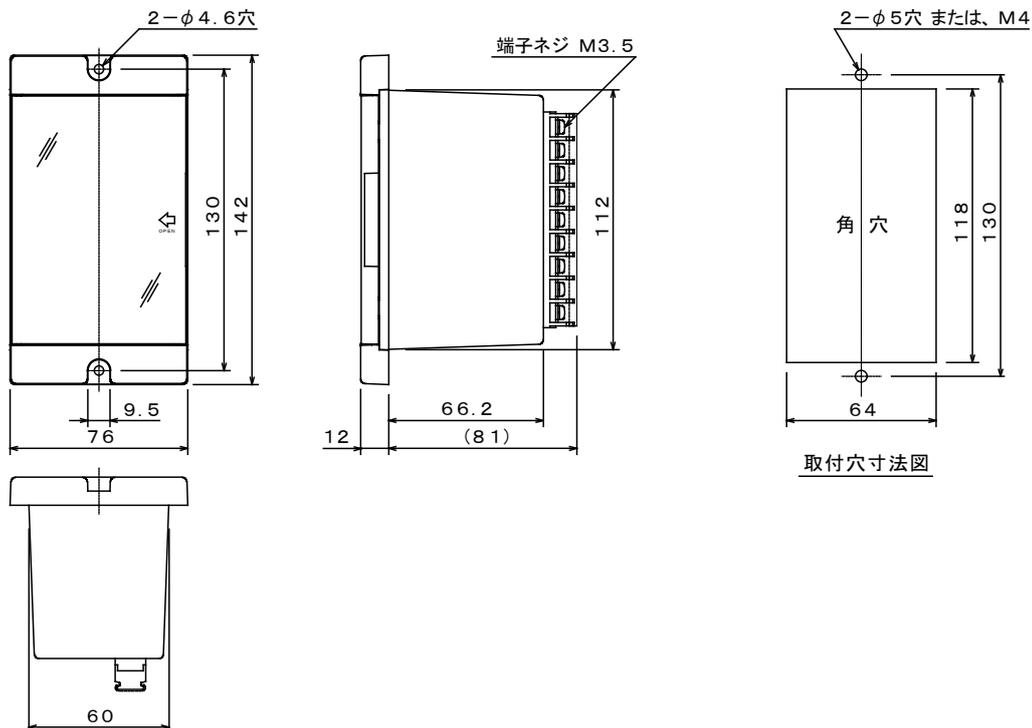
8. 更新推奨時期

日本電機工業会では、使用開始後 15 年とされています。この値は、製造者の保証値ではありません。
日常点検及び定期点検の実施を前提として、これを目安に更新することを推奨するとなっています。

9. 事故警報の場合の処置

- 感度電流整定スイッチで感度を鈍くし、警報が停止するかご確認ください。
簡易的な事故のレベルの確認ができます。
手動復帰設定時は、外部警報が停止しませんので、感度電流整定値を切り替えるごとに、復帰スイッチを押して復帰させてください。
- 警戒電路の事故回路・箇所を調査し処置を行ってください。

10. 外形図



光商工株式会社

本社	〒104-0061	東京都中央区銀座 7-4-14(光ビル)	TEL 03-3573-1362	FAX 03-3572-0149
大阪営業所	〒530-0047	大阪市北区西天満 6-8-7(電子会館)	TEL 06-6364-7881	FAX 06-6365-8936
名古屋営業所	〒460-0008	名古屋市中区栄 4-3-26(昭和ビル)	TEL 052-241-9421	FAX 052-251-9228
福岡営業所	〒810-0001	福岡市中央区天神 4-4-24(新光ビル)	TEL 092-781-0771	FAX 092-714-0852
茨城工場	〒306-0204	茨城県古河市下大野 2000	TEL 0280-92-0355	FAX 0280-92-3709
川崎流通センター	〒216-0005	川崎市宮前区土橋 6-1-3	TEL 044-866-9110	FAX 044-877-7188

お問い合わせ・資料のご請求は………本社継電器営業部・営業所継電器課へ。
フリーダイヤルによる技術的なお問い合わせ………0120-58-7750 (技術グループ)
土、日、祝日、当社休業日を除く 9:00~11:45 / 12:45~17:00 携帯電話・PHS などではご利用いただけません。
電話がかかりにくい場合もございますので、この場合は FAX をご利用いただきますようお願い申し上げます。
FAX による技術的なお問い合わせ………0280-92-6706 (技術グループ)

- お断りなしに、外観、仕様などの一部を変更することがありますので、ご了承ください。
尚、最新の情報はホームページにてご案内致しております。 URL <http://www.hikari-gr.co.jp>